

令和3年度(令和2年度対象)
「教育委員会の主な事務の管理及び
執行状況の点検及び評価」報告書

令和3年9月

相馬市教育委員会

目 次

	ページ
はじめに	
地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）	・・・ 1
ご意見をいただいた学識経験者	・・・ 1
I 教育委員会の会議の概要	
1 教育委員会の委員	・・・ 2
2 教育委員会の会議	・・・ 2
3 教育委員会会議以外の活動状況	・・・ 4
II 事業の点検及び評価	
1 点検及び評価の概要	・・・ 5
(1) 目的	・・・ 5
(2) 対象事業	・・・ 5
(3) 点検・評価方法（第1次評価）	・・・ 5
(4) 教育委員による意見（第2次評価）	・・・ 5
(5) 教育に関する学識経験者の知見の活用	・・・ 5
(6) 点検・評価シートの説明	・・・ 6
III 点検・評価の結果	・・・ 7
【学校教育】	
1－1 確かな学力の育成	・・・ 8
1－2 豊かな心の育成と生徒指導の充実	・・・ 9
1－3 学校施設の整備・充実	・・・ 10
【生涯学習】	
2－1 相馬市まちづくり出前講座の実施	・・・ 11
2－2 青少年健全育成市民会議活動の充実	・・・ 12
2－3 地域づくりを目指したふれあい、交流事業推進	・・・ 13
2－4 特色ある公民館活動の推進	・・・ 14
2－5 開かれた図書館づくりの推進	・・・ 15
【文化】	
3－1 音楽の郷づくり事業の推進	・・・ 16
3－2 相馬市史編さんの実施	・・・ 17
3－3 市民の文化振興の拠点、利活用推進	・・・ 18
3－4 歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催	・・・ 19
【体育・スポーツ】	
4－1 スポーツ少年団活動の充実	・・・ 20
各部門別評価対象事務事業一覧	・・・ 21
IV 教育委員の意見	・・・ 22
V 学識経験者の意見	・・・ 28

はじめに

平成19年6月、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、教育委員会では、毎年、教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会へ提出するとともに市民に公表することが義務付けられました。この法改正は、教育委員会が事務の管理・執行の状況を自ら点検・評価することにより、より効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たすという趣旨に基づくものです。相馬市教育委員会では、本報告書により令和2年度の教育に関する事務の取り組み状況を報告します。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

<ご意見をいただいた学識経験者>

阿内 春生（あうち はるお）

福島大学人間発達文化学類 教育実践コース 准教授

佐藤 和彦（さとう かずひこ）

福島大学人間発達文化学類附属学校臨床支援センター 特任教授

（敬称略）

I 教育委員会の会議の概要

1 教育委員会の委員

相馬市教育委員会は、教育長と5人の委員（※欠員1）で構成され、委員は市議会の同意を得て、市長が任命します。教育長の任期は3年で、教育委員の任期は4年です。教育長は市長が市議会の同意を得て任命し、教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどります。

(令和3年5月1日現在)

職名	氏名	職業	任期
教育長	福地 憲司	元中学校長	令和2年4月27日 ～令和5年1月4日
教育長職務代理者	宗形 明子	(有) 飛天 常務取締役	平成30年10月1日 ～令和4年9月30日
委員	森 陽子	(有) 池田生花店 役員	平成29年10月31日 ～令和3年10月30日
委員	関根 進	(株) I H I キャスティングス 相馬工場総務部グループ部長	令和2年7月1日 ～令和6年6月30日
委員	菅野 明彦	歯科医師	令和元年10月1日 ～令和5年9月30日

2 教育委員会の会議

(1) 定例会、臨時会

令和2年度は、定例会8回、臨時会4回の会議を開催し、31件の議案を審議しました。

開催日及び会議の種類		議案
4月14日	定例会	相馬市立公立学校研究指導員の任命について
		相馬市小・中学校学力向上推進会議委員の委嘱について
		相馬市学校評議員の委嘱について
4月17日	臨時会	教育長の辞職について
5月12日	定例会	令和3年度中学校教科用図書採択に係る採択地区協議会委員の選出について
		相馬市社会教育委員の委嘱について
		相馬市放課後子どもプラン運営委員会委員の補充委嘱について
		相馬市歴史資料収蔵館協議会委員の委嘱について
		相馬市スポーツ推進委員の補充委嘱について
		相馬市公民館運営審議会委員の補充委嘱について
		相馬市図書館協議会委員の補充委嘱について

7月7日	定例会	相馬市スクールソーシャルワーカー設置規則の制定について
		相馬市スクールソーシャルワーカー設置要綱の全部を改正する要綱について
		相馬市適応指導教室設置規則の一部を改正する規則について
		相馬市スポーツ施設条例施行規則の一部を改正する規則について
		相馬市社会教育指導員設置等に関する規則の一部を改正する規則について
		相馬市社会教育指導員設置要綱の一部を改正する要綱について
		相馬市指定文化財の指定について
7月28日	臨時会	令和3年度使用中学校教科用図書の採択について
		令和3年度使用学校教育法附則第9条第1項に規定する教科用図書の採択について
8月4日	定例会	議案の審議なし
10月6日	定例会	相馬市図書館協議会委員の委嘱について
11月4日	定例会	議案の審議なし
1月12日	定例会	令和3年度学校教育課の重点目標・努力目標について
2月2日	定例会	相馬市青少年問題協議会設置条例施行規則の一部を改正する規則について
3月4日	臨時会	令和3年度県費負担教職員管理職の人事発令内申について
		令和2年度2月専決予算について
		令和2年度教育費3月補正予算について
		令和3年度教育費当初予算について
3月12日	臨時会	令和3年度相馬市職員の人事発令内申について
		令和3年度相馬市立幼稚園長及び教頭の人事発令について

(2) 移動教育委員会

教育委員自らが教育現場に出向き、現況視察、意見交換や懇談を行ない、状況を把握することにより問題点や課題等を明確にし、教育委員会としての支援策を探るため、移動教育委員会を行ってまいりましたが、コロナ禍における授業カリキュラムの変更に伴い令和2年度は実施しておりません。代替えとして相双教育事務所への要請で実施される学校訪問の際に教育委員も参加することにより、各校における教育活動の取組状況や教育施設の整備状況を確認いたしました。

(3) 報告及び協議事項、教育行政の課題の議論

議案に準ずる重要な案件については、報告及び協議事項として議論しました。

開催日	内 容
4月14日定例会	[報告]令和2年第1回3月定例会市議会における質問について [報告]相馬市スポーツ施設条例の一部を改正する条例について [報告]相馬市いじめ防止等に関する条例について [報告]相馬市いじめ問題対策連絡協議会設置要綱の制定について [報告]相馬市いじめ問題対策委員会設置要綱の制定について [報告]相馬市教育実践センター所長の任命について [報告]相馬市教育実践センター指導主事の任命について [報告]相馬市教育実践センター指導主事の任命について [協議]なし
5月12日定例会	[報告]なし [協議]なし
7月7日定例会	[報告]相馬市教育委員会委員の任命について [報告]相馬市スポーツ施設条例の一部を改正する条例について [報告]相馬市LVMH子どもアート・メゾン条例の一部を改正する条例について [報告]令和2年第4回6月定例会市議会における質問について [協議]令和2年度(令和元年度対象)「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検及び評価」報告書について [協議]学校訪問実施計画について
8月4日定例会	[報告]令和2年度7月専決予算について [協議]相馬市総合教育会議に係る協議事項について [協議]令和2年度(令和元年度対象)「教育委員会の主な事務の管理及び執行状況の点検及び評価」報告書について
10月6日定例会	[報告]令和2年第5回9月定例会市議会教育費予算について [報告]令和2年第5回9月定例会市議会における質問について [協議]相馬市総合教育会議に係る協議事項について
11月4日定例会	[報告]なし [協議]相馬市総合教育会議に係る協議事項について
1月12日定例会	[報告]令和2年第6回12月定例会市議会教育費予算について [報告]令和2年第6回12月定例会市議会における質問について [協議]相馬市子ども・子育て会議委員の推薦について
2月2日定例会	[報告]なし [協議]なし

3 教育委員会議以外の活動状況(教育長を除く)

- ・教育委員研修会等 1回(延べ6人)
- ・その他学校行事等 4回(延べ16人)

Ⅱ 事業の点検及び評価

1 点検及び評価の概要

(1) 目的

教育委員会が、事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その報告書を議会へ提出し、公表することにより、効果的な教育行政を推進するとともに、市民への説明責任を果たします。

(2) 対象事業

相馬市教育振興基本計画の大きな4分野「学校教育」「生涯学習」「文化」「体育・スポーツ」の中の事業を目的別にまとめた「施策」の中から13施策を対象とし、令和2年度の実施内容について点検及び評価を行いました。

(3) 点検・評価方法（第1次評価）

ア 評価単位

13の「施策」単位で行い、それぞれ1以上の事務事業について行なう。

イ 評価方法

施策を構成する「事務事業」の取り組み内容から、「必要性」「有効性」「達成度」について、1～5段階評価を実施し、それをもとに総合評価（A～D）を行い、さらにその事務事業の成果と課題を点検し自己評価としました。数値目標があるものは、その目標値にどれだけ近づけたかも参考にして総合評価を行いました。

○必要性：「目的」「緊急性」「義務」「要望・要請」「適応性」「類似・重複」

○有効性：「実効性」「進捗管理」「改善状況」「将来性」「情報提供」「効率性」

○達成度：「必要性・有効性の状況」「数値目標に対する進捗状況」

(4) 教育委員による意見（第2次評価）

点検及び評価（第1次評価）シートに基づき、教育委員が施策の取り組み方などについて、意見をまとめ第2次評価とします。

(5) 教育に関する学識経験者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第2項の教育に関する学識経験者の知見の活用については、教育委員会で施策ごとに作成した「点検・評価シート（第1次評価）」並びに「教育委員による審査（第2次評価）」に基づき、学識経験者に意見・助言をいただきました。

(6) 点検・評価シートの説明

点検及び評価シート 1

部門名	振興基本計画の【章】を記載	No	—	
大項目	振興基本計画の【節】を記載			
施策名	施策の体系図の【基本】を記載			
構成する施策	施策の具体的内容の中の【主な施策】の1つを記載			
担当部署	教育委員会担当部署を記載			
施策の背景と目的	現在どういう状況(背景)にあって、それをどのようにしたいか(目的)やなぜこの施策が必要なのかを記載			
【施策を構成する事務事業の自己評価】				
総合評価	施策を構成する事務事業の「必要性」「有効性」「達成度」を総合的に判断し自己評価(第1次評価)を記載 A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要			
成果	・施策の目的に対してどのような成果があったかを記載 ・施策を構成する事業が、どのように施策に寄与したかを踏まえて記載 ・妥当な経費かどうかを検証して記載			
課題	・施策を進める上で課題や改善点を記載			
【施策を構成する事務事業の概要・実績等】				
事業名	施策を構成する事務事業の1つを記載			
事業概要	・施策の全体事業内容を記載 ・評価年度に取り組んだ事業内容を詳細に記載 ・取り組んだ事業内容の経費についても記載			
評価年度の取り組み	右に記載の6項目についてチェックし、必要性が高いものほど数字がおおき 右に記載の6項目についてチェックし、有効性が高いものほど数字がおおきくなる 決算(見込)額を記載 決算額を記載			
必要性 1~5	目的 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1~5 教育振興基本計画に記載されている数値を記載	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	平成26年度決算額 円 平成25年度決算額 円
達成度 1~5	数値目標と実績値とを比較して達成度を記載 数値が大きくなるほど達成度が高い 現況数値(平成21年度) <input type="checkbox"/>	目標値(平成28年度) <input type="checkbox"/> 教育振興基本計画に記載されている数値を記載	実績値 <input type="checkbox"/>	この事務事業の取り組みにより達成した実績値を記載

Ⅲ 点検・評価の結果

13の施策について、それぞれ1以上の事務事業について第1次評価を実施しました。それぞれ評価シートを次ページ以降に掲載し、最後に評価の「必要性」「有効性」「達成度」「総合評価」をまとめたものを「各部門別評価対象事業一覧」として掲載しました。

【学校教育】

- 1-1 確かな学力の育成
[事務事業] 学力向上推進事業
- 1-2 豊かな心の育成と生徒指導の充実
[事務事業] 心のケア事業
- 1-3 学校施設の整備・充実
[事務事業] 老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施

【生涯学習】

- 2-1 相馬市まちづくり出前講座の充実
[事務事業] 相馬市まちづくり出前講座の実施
- 2-2 青少年健全育成市民会議活動の充実
[事務事業] 青少年健全育成市民会議事業
- 2-3 地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進
[事務事業] 学習発表会の充実と強化
- 2-4 特色ある公民館活動の推進
[事務事業] 特色ある公民館活動事業
- 2-5 開かれた図書館づくりの推進
[事務事業] 図書館利用に関する調査

【文化】

- 3-1 音楽の郷づくり事業の推進
[事務事業] そうま音楽夢工房コンサートの実施
- 3-2 相馬市史編さんの実施
[事務事業] 市史編さん事業
- 3-3 市民の文化振興の拠点、利活用促進
[事務事業] 市民会館の利活用促進
- 3-4 常設展・企画展の開催
[事務事業] 歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催

【体育・スポーツ】

- 4-1 スポーツ少年団活動の充実
[事務事業] スポーツ少年団活動の充実

点検及び評価シート 1

部門名	学校教育	No	1	—	1
-----	------	----	---	---	---

大項目	学校教育の充実
施策名	生き抜く力を育む学校教育の充実
構成する施策	確かな学力の育成
担当部署	教育部学校教育課
施策の背景と目的	確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成するためには、学習指導、道徳教育、生徒指導、体育・健康に関する指導など教育活動全般に渡ったバランスのとれた指導を行う必要がある。そのために、教育環境の整備充実と家庭・地域との連携協力、並びに研修等を通して教員の指導力の向上を図るとともに、児童・生徒の心のケアに努める必要がある。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	A	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	・全国学力学習状況調査や相馬市学力調査の結果から、小・中学校とも、国語の平均正答率の他、短答式や記述式の問題が全国を上回っており、「書く力」の高まりが伺える。小学校での辞書引き活動、新聞や新聞コラムを活用し、家庭学習との連携を図りながら新聞活用事業を行ったことが理由のひとつと考えられる。 ・相馬市学力調査結果による成績優秀者表彰制度は、市長表彰の2・3年生20名中15名が連続で表彰されている。市内小・中学生にとって、学習意欲や自ら進んで学習しようとする主体的な学習態度の育成や質の高い家庭学習の習慣化にもつながっている。 ・2学期終了段階での成果と課題を各校に照会したところ、以下のとおりであった。 [目標を達成した学校の割合]ICT機器活用100%、教材・新聞活用100% ・相馬寺子屋学習会については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施することができなかった。	
課題	課題としては、以下の点が挙げられる。 全国学力・学習状況調査や相馬市学力調査では、複数の情報や資料を読み取り活用する力に課題があるため、RS(リーディングスキル)を意識した授業改善とICT機器を利用した資料の提示や思考過程の見える化など効果的な活用を図り、児童生徒の思考・判断・表現力の向上を図ることが必要である。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	学力向上推進事業						
事業概要	東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の影響からの復興のためには、学校の教育課題を踏まえ、学校の特色を生かした学力向上事業によって将来を担う子供たちに確かな学力を身につけさせ、将来の職業選択の可能性を高める必要がある。これからの時代を生き抜くために必要な力(読解力)を身に付けさせるために、RST(リーディングスキルテスト)により読解力の可視化し、実態に基づいた事業展開を図る。 ・RST(リーディングスキルテスト)の実施 ・「新聞・新聞コラム」の活用						
評価年度の取り組み	1 学力向上推進事業 ・新聞活用、新聞コラム活用 【小学校】○毎日小学生新聞20回配付(5.6年児童・9校) 【中学校】○朝日中高生新聞20回配付(中学1年)○新聞コラム30回(中学2.3年) ○進学講演会(中学3年) ○新聞コラムレクチャー会(中学2年) ・RST(リーディングスキルテスト)の実施と活用 【受検対象】小6,中1～3、教員 【実施時期】11月 2 「相馬寺子屋」事業(東京大学学生による中学生への学習支援) ・寺子屋学習会(全26回)、東大見学(年1回)を予定 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止						
必要性 1～5	5	目的 <input type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和2年度決算額 10,167,045円	
達成度 1～5	4	現況数値(平成27年度)	—	目標値(平成34年度)	—	令和元年度決算額 7,016,200円	実績値 —

点検及び評価シート1

部門名	学校教育	No	1	-	2
-----	------	----	---	---	---

大項目	学校教育の充実
施策名	生き抜く力を育む学校教育の充実
構成する施策	豊かな心の育成と生徒指導の充実
担当部署	教育部学校教育課
施策の背景と目的	確かな学力、豊かな心、健やかな体を育成するためには、学習指導、道徳教育、生徒指導、体育・健康に関する指導など教育活動全般に渡ったバランスのとれた指導を行う必要がある。そのために、教育環境の整備充実と家庭・地域との連携協力、並びに研修等を通して教員の指導力の向上を図るとともに、児童・生徒の心のケアに努める必要がある。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	A	<p>A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要</p>
成果	<p>新型コロナウイルス感染症のため制限された学校生活を送ることとなった児童生徒のストレス対して、県派遣のSCやSSW、相馬フォロアーチームが連携し対応にあたることができた。SSWの活用については、家庭環境に係る困難なケースも増えてきており、支援件数も225件(前年比+6)と増えている。また、相馬フォロアーチームについては、相談件数は500件と前年を下回ってはいるが、台風19号により活動拠点を相馬愛育園に移動したことによる環境の変化や、新型コロナウイルス感染症により面談が困難だったことが大きく影響していると考えられる。しかし、通常の相談支援に加えてオンライン相談を実施するなど、環境に応じた対応で相談活動を継続することができた。また、SSWや相馬フォロアーチームのSCが生徒指導ケース会議に参加し、定期的な情報共有を図り、不登校対策に取り組むことが出来た。相馬市メンタルヘルスサポート事業についても認知が進み、令和2年度は相談件数が24件と前年+4件であった。うち1名を医療へつなぐことが出来た。</p>	
課題	<p>不登校の要因として、学校生活における人間関係づくりや学力不振の問題だけではなく、家庭的な環境により不登校となる児童生徒が増加している。長期間にわたって不登校になっている児童生徒については、学校による働きかけはもちろんのこと、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、民生委員や家庭児童相談員、医療機関との連携がより重要である。また、増加する愛着障がいへの対応が喫緊の課題ともなっている。</p>	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	心のケア事業						
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 「相馬フォロアーチーム」によるカウンセリング業務 東日本震災の被災による精神的ダメージが子どもたちの健全な成長に影響することが懸念されることから、児童生徒の「心のケア」を目的として、臨床心理士によるカウンセリング業務を行う。 スクールソーシャルワーカー派遣事業 安心した学校生活を送れるよう、児童生徒の心のケア、教員や保護者への助言・援助、福祉関係機関との連携調整を行う。 メンタルヘルスサポート事業 悩みを抱え、不安定になっている相談者に対して、医療の専門家によるメンタルヘルス相談を行い、心のケアを行うとともに、教育・福祉の分野から医療分野への相談を円滑に行う。 						
評価年度の取り組み	<p>1. 相馬フォロアーチームの活動内容</p> <p>① 学校巡回カウンセリング(3名のカウンセラーが対応) ア 派遣校 中村二小(週2)、磯部小(週1)、中村二中(週1.5)、磯部中(週1) イ 津波被災4校だけでなく、相馬市全体へと活動を広げている ※ LVMH子どもアートメンでの相談活動の機会増(被災4校以外) ② LVMH子どもアートメン相談室での子育てに関する相談活動 ア 広く相馬市内の子どもや保護者を対象とした子育て相談 イ 教育委員会・適応指導教室・医療機関との連携 ウ スクールソーシャルワーカーとの連携(週1回の情報交換) ③ その他 講演会・相馬看護専門学校委託事業</p> <p>2. スクールソーシャルワーカー配置事業 ①週3日、年間30週の勤務 ・中一中を拠点校として、市内全校への対応</p> <p>3. メンタルヘルスサポート事業 ①月2回アートメンを会場とした精神科医による相談業務(堀メンタルクリニック 堀有伸医師)</p>						
必要性 1~5	5	目的 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1~5	5	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和2年度決算額 24,487,585円 令和元年度決算額 22,801,710円	
達成度 1~5	4	現況数値(平成27年度)	—	目標値(平成34年度)	—	実績値	—

点検及び評価シート1

部門名	学校教育	No	1	—	3
------------	-------------	----	---	---	---

大項目	教育環境の充実
施策名	教育施設の安全・安心の確保
構成する施策	学校施設の整備・充実
担当部署	教育部 総務課
施策の背景と目的	学校教育施設の整備については、耐震化対策と施設の老朽化対策を併せて推進する必要があります。校舎・体育館の耐震化対策については全て終了しておりますが、今後の老朽化対策については、児童生徒数が減少する中、建築年次や老朽化の度合いにより、改築や大規模改修など年次計画を作成し、整備に努めなければなりません。また、設備の充実についても計画的に進めていく必要があります。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	A	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	中村第二中学校の外構工事は令和2年5月26日に完了しました。 市内小中学校3校のトイレを洋式改修工事を令和3年3月17日までに終了し、市内全ての小中学校のトイレが洋式化されました。 日立木小学校校舎改修事業が令和2年8月28日に完了しました。 これまで計画した老朽化対策事業や学校教育環境の改善につながる、空調機設置やトイレの洋式化事業が完了した。	
課題	学校施設は、地区の防災拠点としての役割を加味していかなければなりません、児童生徒数が減少する中、施設の統廃合や学区の見直しなどと併せて検討する必要があります、市内学校のあり方検討委員会で市内小中学校の将来を調査・検討し方向性を決めてから施設の整備・充実に努めることが重要となります。 また令和3年2月13日に発生した福島県沖地震で被災した市内全ての学校校舎などの復旧工事において、学校の授業や行事などに配慮し、学校との連絡調整を緊密して進めることが重要と考えています。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施						
事業概要	第一に、校舎の老朽化対策として、中村第二中学校校舎の改築は平成26～31年度の計画で平成30年度に校舎が完成し令和元年度は外構を整備する予定です。第二に、空調機設置については平成30年度内に小学校4校、中学校1校を着手し令和元年6月末完成を目指し工事を進めています。第三に、小学校洋式トイレ改修事業については2校が改修工事完了しました。第四に、校舎の長寿命化及び学習環境の改善を図るため、日立木小学校校舎改修事業は平成30年度に実施設計に着手し、平成30～令和2年度の計画で改修いたします。						
評価年度の取り組み	[小学校]	洋式トイレ改修工事設計業務委託	1,586,712円				
		洋式トイレ改修工事	30,668,000円				
		令和2年度支出分:	32,254,712円				
	[中学校]	洋式トイレ改修工事設計業務委託	1,383,288円				
		洋式トイレ改修工事	10,549,000円				
		令和2年度支出分:	11,932,288円				
		中学校バルコニー手摺改修工事	12,956,000円				
		中村第二中学校改築外構工事	27,787,900円				
	[日立木小]	校舎長寿命化改修建築主体工事	206,661,800円				
		校舎長寿命化改修電気設備工事	44,251,000円				
		校舎長寿命化改修機械設備工事	57,882,400円				
		校舎長寿命化改修工事監理業務委託等	6,646,800円				
		令和2年度支出分:	315,442,000円				
必要性 1～5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input checked="" type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input checked="" type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input checked="" type="checkbox"/>	令和2年度 決算額	400,374,900円
						令和元年度 決算額	1,452,972,720円
達成度 1～5	5	現況数値 (平成27年度)	—	目標値(平成34年度)	—	実績値	—

点検及び評価シート 1

部門名 生涯学習	No. 2 - 1
-----------------	-----------

大項目	生涯学習推進体制の充実
施策名	生涯学習意識の啓発と多様な学習内容の企画運営
構成する施策	相馬市まちづくり出前講座の充実
担当部署	生涯学習部 生涯学習課
施策の背景と目的	市民一人ひとりが健康で心豊かな生活が送れるよう、相馬市の現状や歴史などについて市職員や関係機関の職員が講師となり、学習機会を提供し、市民の学習意欲に応えることを目的としています。また、生涯学習ボランティアの推進及び日ごろの生涯学習活動で習得した技術や知識を実践する場を提供するため、ボランティア市民講師による講座も併せて実施しています。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	市民の教養の向上及び学びの機会を提供し、令和2年度は619名の市民が出前講座を利用しました。ボランティア市民講師による講座は「御仕法について」や「介護予防・認知症予防」など15講座を用意し、生涯学習の実践の場を提供することができました。小・中学校の総合学習や地区老人会のほか、市内の企業などからも申し込みがあり出前講座が各方面に認知されてきています。 また、市民の要望を受け特別講座「相馬市の防災対策について」を新たに加え2回実施しました。市民の要望に迅速に応えた点、そして普通講座を新たに3講座を追加できた点が成果として挙げられます。	
課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度の受講者数2,001名に対して、受講者数が大幅に減少しました。新型コロナウイルスの沈静化を見据え、魅力ある講座の開発、人材を発掘し受講者数の復元、増加につなげなくてはならない。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	相馬市まちづくり出前講座の実施						
事業概要	市民などが主催する学習会に市職員や関係機関の職員及びボランティア市民講師が出向き、講座を実施しています。講座実施後は、講師からは「講座報告書」を、受講者からは「受講者アンケート」を提出してもらい、講座内容を検証しています。 年1回程度、講座の担当課及びボランティア市民講師に講座の見直しを依頼し、内容を更新しています。 ボランティア市民講師については年間を通して募集し、随時追加しています。						
評価年度の取り組み	前年度2月にメニューの見直し、6月に生涯学習推進会議及び7月に生涯学習推進本部で事業内容の検証 4月 1日 「広報そうま」へ出前講座の掲載、HPへ掲示 出前講座の内容をまとめたリーフレットを作成し、公民館等へ配布しました。 通年 出前講座を実施しました。						
必要性 1～5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input checked="" type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1～5	4	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和2年度決算額	0円
						令和元年度決算額	0円
達成度 1～5	4	現況数値 (平成27年度)	41件	目標値(令和4年度)	70件	実績値	27件

点検及び評価シート 1

部門名	生涯学習	No	2	-	2
-----	------	----	---	---	---

大項目	青少年の健全育成活動の充実
施策名	非行防止活動の充実
構成する施策	青少年健全育成市民会議活動の充実
担当部署	生涯学習部 生涯学習課
施策の背景と目的	青少年をとりまく環境は、少子化、核家族化、高度情報化、家庭や地域教育力の低下、そして、東日本大震災の影響により大きく変化しています。青少年健全育成市民会議では、地域や関係団体等と連携し、青少年の心と身体の健全な育成を図り、非行防止策を推進することを目的として事業に取り組んでいます。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	市内28地区で青少年健全育成のための活動が行われ、家庭や地域のふれあいを深める取り組みを推進しました。活動内容として、ウォーキング大会、クリスマス会、卒業入学祝い、通学路ゴミ拾いなどが開催されています。 また、団体活動奨励金を交付し、親子レクリエーション、納涼会など各団体の健全育成活動を支援しています。申請団体数としては11団体から申請がありました。交付実績数は22団体でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により11団体が事業中止(奨励金全額返還)となりました。	
課題	新型コロナウイルスの影響により多くの団体で活動自粛となりましたが、各団体がコロナ禍で活動できる事例を紹介するなど取り組みが必要でした。なお、現在は団体で実施できた活動事例を機関紙でお知らせしています。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	青少年健全育成市民会議事業						
事業概要	家庭・学校・地域などが連携し、青少年の成長を支える環境づくりを進めるため、各地区や青少年の健全育成を行う団体に対して補助金を交付することにより、地域での青少年健全育成への取り組みを支援しています。 また、少年センターや相馬市子育て支援連絡会をはじめとした関係機関等と連携した非行防止活動や啓発活動を実施しています。						
評価年度の取り組み	令和2年度では、地区育成活動補助金として、28地区9,250世帯に971,430円、団体活動奨励金として11団体に680,828円を交付しています。その他、広報誌の発行、少年の主張大会の開催(音声審査)を実施しました。なお、例年実施している街頭啓発活動及びみんなで子育てワイワイショップ(相馬市子育て支援連絡会主催)は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。						
必要性 1~5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input checked="" type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input checked="" type="checkbox"/> 類似・重複	<input checked="" type="checkbox"/> 有効性 1~5	5	<input checked="" type="checkbox"/> 実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input checked="" type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 令和2年度決算額	1,904,251円
達成度 1~5	5	現況数値(平成27年度)	36団体	目標値(令和4年度)	36団体	実績値	11団体

点検及び評価シート 1

部門名	生涯学習	No	2	-	3
-----	-------------	----	---	---	---

大項目	生涯学習施設の充実
施策名	公民館活動の推進
構成する施策	地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進
担当部署	中央公民館
施策の背景と目的	各公民館で実施している各種教室生の学習成果を発表する機会を設けることにより、学習意欲の高揚をはかるとともに、地域社会に対して、より開かれた公民館活動をめざす。 ①創作技能の向上を図る。②学習成果の喜びを分かち合うとともに教室生間、及び市民との交流を促進する。③多くの市民に公民館事業への参加を呼びかける。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	新型コロナウイルス感染症の影響により、市内9か所(中央、東部、大野、飯豊、磯部、日立木、八幡、山上、玉野)すべての公民館で学習発表会を中止した。そのうち、代替事業として中央公民館は、『壁新聞』を作成し教室の紹介を行った。また、飯豊は公民館だよりの特別号を作成し『紙面公民館まつり』として日立木も同様に特別号を作成し地区住民に配布した。大野は作品の展示コーナーを企画したが、福島県沖地震の影響で中止した。	
課題	①学習発表会に参加する教室及び教室生が減少している。教室生の高齢化が進み存続が危うい状況になっている教室もある。(飯豊) ②学習発表会を紙面開催としたが、コロナ禍の中での開催方法など再検討する必要がある(飯豊) ③新型コロナウイルスの影響で学習発表会が開催できないため、教室生の成果発表の方法について検討が必要である。(中央、大野) ④学習発表会が中止となった場合の代替事業を検討する必要がある。(日立木) ⑤新型コロナウイルス感染症拡大防止3密の回避、マスク着用、手指消毒などの対策を取りながらの人を集めるイベント実施が難しい。ワクチン接種による感染抑制効果に期待する。(中央) ⑥一昨年から水害や新型コロナウイルス感染症の影響により学習発表会が中止となり、中止が続くと教室生の意欲低下につながる恐れがある。(中央)	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	学習発表会の充実と強化						
事業概要	公民館で実施している教室・講座で学習した内容を発表する場を設けて、学習意欲の高揚と、市民との交流を図る事業						
評価年度の取り組み	新型コロナウイルスの影響で9つある公民館、全館中止せざるを得なかった。 平成30年度 2,887人 → 令和元年度 1,187人 → 令和2年度 0人となった。						
必要性 1~5	5	目的 <input type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1~5	5	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和2年度 決算額	0 円
						令和元年度 決算額	0 円
達成度 1~5	3	現況数値 (平成27年度)	2,405人	目標値(平成34年度)	2,900人	実績値	0人

点検及び評価シート 1

部門名	生涯学習	No	2	-	4
-----	-------------	----	---	---	---

大項目	生涯学習施設の充実
施策名	公民館活動の推進
構成する施策	特色ある公民館活動の推進
担当部署	中央公民館
施策の背景と目的	公民館は、地域住民が健康で明るく生きがいに満ちた豊かな地域づくりを目指せるよう、教養・生きがい・健康の大きく3つテーマで教室等を開設するとともに、各地域ごとの実情と住民ニーズに対応した特色ある教室や事業の展開を図っていきます。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	各公民館では、教養、生きがいづくり、健康づくりをテーマとした教室の開設以外に重点事業として位置づけた「特色ある事業」を展開しました。この特色ある事業については、新型コロナウイルス感染症及び福島県沖地震の影響により実施できない講座が多かったが、感染対策を徹底したうえで実施した。参加者は1,696人(前年4,862人)(34.9%)となり、最低限度の成果はあった。	
課題	新型コロナウイルス感染症及び福島県沖地震の影響により各事業を実施できなかった期間(令和2年4月から6月、翌年1月から3月)があった。今後において新型コロナウイルス感染症の制約がある中で、事業展開に不安はあるが、主催者として参加者の安全を考えて、企画立案及び実施の可否を判断するのが難しい。ワクチン接種による感染抑制効果に期待する。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	特色ある公民館活動(事業)						
事業概要	各公民館で実施している、「教養」「生きがいづくり」「健康づくり」を目標とした各種教室・講座のほかに、各地域住民のニーズに応じていくためや地域の実情に合わせた事業を重点事業として位置づけし、各公民館毎に特色のある公民館活動(事業)の展開を図っている。						
評価年度の取り組み	令和2年度の各公民館における特色ある公民館事業としては、東部:そば打ち教室87人→47人。大野:サマースクール154人→中止、行政区長杯パークゴルフ大会新規事業84人。飯豊:ハベッ子教室80人→中止、骨太けんこう体操教室新規事業413人、手作りワークショップ新規事業12人。八幡:、地域ふれあい教室58人→8人。日立木:三世代交流事業220人→中止、園芸教室273人→122人。山上:里山ハイキング57人→32人。磯部:いそべ絆教室38人→20人、親子陶芸体験9人→中止。玉野:健康マーじゃん教室359人→223人、レーンボール卓球教室98人→87人。中央:プラネタリウム148人→中止、子ども書き初め教室新規事業23人、手作り肉まん教室新規事業17人が参加するなど、事業展開を行った。						
必要性 1~5	5	目的 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1~5	5	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和2年度 決算額	597,000 円
						令和元年度 決算額	1,164,000 円
達成度 1~5	3	現況数値 (平成27年 度)	—	目標値(平 成34年度)	—	実績値	—

点検及び評価シート 1

部門名	生涯学習	No	2	—	5
大項目	図書館機能の充実				
施策名	図書館機能の充実				
構成する施策	開かれた図書館づくりの推進				
担当部署	生涯学習部 図書館				
施策の背景と目的	誰もが利用しやすく、親しまれる、魅力のある図書館づくりを行うため、利用者の知識欲や読書ニーズに対して質の高いサービスを提供できるように努める必要があります。そのために、図書館利用者に対するアンケート調査『図書館利用に関する調査』を実施し、ニーズに沿った図書館運営に努めます。				

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	<p>A 事業をさらに推進することが妥当</p> <p>B 事業を現状のまま継続することが妥当</p> <p>C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要</p> <p>D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要</p>
成果	アンケート調査により、利用者の実態と図書館に対する満足度や利用者ニーズが把握できました。毎年、継続して行うことにより、比較検討が可能となります。「来館の目的は達成できましたか」の調査項目に対し、不十分であったとの回答は1名のみでした。年度限定の調査項目「コロナ禍の対応について」は9割以上の方が満足との回答でした。また「今後、充実してほしいサービス」として、「資料の調査・相談・リクエスト」が毎年、上位を占めることから、レファレンスサービスに対応する職員の資質向上のため、研修に参加し知識の向上に努め、かつ毎月のミーティングにより、情報や問題点等を共有し、改善に努めました。	
課題	来館者の目的の達成率を高める工夫や、ブックリターンポストの取扱い、貸出冊数の検討など、よりニーズに沿った運営に努める必要があります。また、職員は専門的知識の習得に努め、レファレンスなどにスピーディに対応できる質の高いサービスを提供していく必要があります。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	図書館利用に関する調査						
事業概要	調査方法:受付カウンターにて調査票を配布し、記入後に回収箱に投函してもらう。(留置調査) 調査項目数: 17 項目(うち毎年継続調査16項目) 継続調査項目:利用者について5項目(性別、年齢、図書館からの距離、就業状況、図書館への交通手段)、利用状況について10項目(利用頻度、来館理由、目的が達成されたか、目的が達成できなかった理由、図書館情報の取得方法、予約・リクエストサービスの認知度、館内表示の見やすさ、職員の対応、充実してほしい資料、充実してほしいサービス)、意見・要望等について1項目(自由記載)						
評価年度の取り組み	調査対象:高校生以上の図書館入館者 調査期間:令和2年12月1日から12月30日までの30日間 回収状況:配布数 224部、回収数 109部、回収率 48.6% 調査項目:毎年継続調査16項目+年度限定調査1項目(コロナ禍の対応について)						
必要性 1~5	4	目的 <input type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1~5	5	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和2年度 決算額	0円
						令和元年度 決算額	0円
達成度 1~5	4	現況数値 (平成27年度)	—	目標値(平成34年度)	—	実績値	—

点検及び評価シート 1

部門名	文化	No	3	-	1
-----	----	----	---	---	---

大項目	芸術文化の振興
施策名	芸術文化活動の促進
構成する施策	音楽の郷づくり事業の推進
担当部署	生涯学習部 生涯学習課
施策の背景と目的	日常から身近に音楽に触れ、豊かな感性を育み、潤いのある生活を送るため、広く市民が生きた音楽に親しむ機会を創るとともに、音楽大学生や若い音楽家、プロの音楽家を目指している方等に演奏する場を提供し演奏家の育成に努め、「音楽の息づく街」として内外にアピールし、文化的な交流を増やすことにより地域活性化を目指します。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	令和2年度は、例年同様の3回の演奏会を実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、うち2回が開催延期となりました。12月12日の演奏会では、相双地方出身の演奏者が所属する団体が出演しました。課題となっていた人材の確保・育成は若手職員4名が加わり、先輩スタッフと共にポスター配布やコンサートの準備、運営に携わりました。	
課題	スタッフの高齢化に伴い、今後の「そうま音楽夢工房」の活動を担う人材確保やこれまで培った運営技術の継承が課題となっています。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	そうま音楽夢工房コンサートの実施								
事業概要	より多くの人に来場していただき、広く市民が音楽に親しむ機会を創るとともに、音楽を通じた心の癒し、音楽の力で多くの人を勇気づけることを目指します。								
評価年度の取り組み	令和2年度は演奏会を1回実施。多くの市民等に、低料金で生の演奏を提供できました。 12月12日 Trio Flora ふるさとコンサート【54名】 1月30日 たたくんの音広場 in 相馬 ～みんなでかなでる、そうまビート！～ 【新型コロナウイルス感染症の影響により延期】 2月13日 童謡オペラ～本気の童謡コンサート～【新型コロナウイルス感染症の影響により延期】								
必要性 1～5	5	目的	<input checked="" type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	実効性	<input checked="" type="checkbox"/>	令和2年度決算額	535,829円
		緊急性	<input type="checkbox"/>			進捗管理	<input type="checkbox"/>		
		義務	<input type="checkbox"/>			改善状況	<input checked="" type="checkbox"/>		
		要望・要請	<input checked="" type="checkbox"/>			将来性	<input checked="" type="checkbox"/>	令和元年度決算額	1,833,213円
		適応性	<input checked="" type="checkbox"/>			情報提供	<input type="checkbox"/>		
		類似・重複	<input type="checkbox"/>			効率性	<input type="checkbox"/>		
達成度 1～5	5	現況数値 (平成27年度)	—	目標値(令和4年度)	—	実績値	54人		

点検及び評価シート1

部門名 文化	No	3	-	2
---------------	----	---	---	---

大項目	文化財の保存・活用
施策名	歴史的伝統文化の保存伝承
構成する施策	相馬市史編さんの実施
担当部署	生涯学習部 生涯学習課
施策の背景と目的	市史編さん事業は、市制50周年(H16.3.31)を記念し、本市のいにしえをたずね、新しい相馬市づくりに寄与するため、古くは縄文以前に遡る本市の長い歴史や文化、現代に引き継がれた豊かな自然等に関して調査・研究を進めることを目的として事業開始しました。その成果をまとめて市民に提供することにより、市の文化振興に役立てていきます。さらには、市民が郷土の歴史や文化を学び、郷土の現状を正しく把握し、市民としての自覚を高め、将来に向け市政発展の精神的基盤をつくることを目的としています。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	『相馬市史』の刊行に向けた編さん作業(原稿執筆/編集・校正等)を中心に実施しました(販売実績＝新市史96冊、旧市史3冊、史料所在調査報告書0冊、衆臣家譜約24冊)。蓄積された知識・情報を活かし、市内外からの相馬の歴史等に関する問い合わせに応じた資料提供など、円滑な対応ができ、『中世資料編』および『近世資料編』を刊行するに至った。	
課題	執筆者と密に連絡を取りながら進捗状況の管理に努めていますが、執筆者からの原稿提出や校正ゲラの返却が遅くなりがちで、なかなか刊行計画どおりに進めることができず苦慮しています。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	市史編さん事業								
事業概要	『相馬市史』の刊行(平成24～令和6年度に全10冊刊行予定)*その他に年表も刊行する。 ・平成24年度『相馬市史第6巻資料編Ⅲ近世2』 ・平成26年度『相馬市史第4巻資料編Ⅰ原始・古代』『相馬市史第8巻特別編Ⅰ自然』 ・平成29年度『相馬市史第9巻特別編Ⅱ民俗』『相馬市史第7巻資料編Ⅳ近代・現代』 ・令和2年度『相馬市史第4巻資料編Ⅰ中世』『相馬市史第5巻資料編Ⅱ/近世1』 ・令和3年『相馬市史第3巻通史編Ⅲ/近代・現代』 ・令和4年度『相馬市史第1巻通史編Ⅰ/原始・古代・中世』『相馬市年表』 ・令和5年度『相馬市史第2巻通史編Ⅱ/近世』								
評価年度の取り組み	編さん委員会・専門委員会・各部会(会議及び調査)の開催、個人調査の外、 ・中世:『相馬市史第4巻資料編Ⅰ中世』編さん作業(編集・校正等) ・近世:『相馬市史第5巻資料編Ⅱ近世1』編さん作業(編集・校正等) ・近代・現代:『相馬市史第3巻通史編Ⅲ近代・現代』編さん作業(原稿執筆/編集・校正等) ・原始・古代・中世:『相馬市史第1巻通史編Ⅰ原始・古代・中世』編さん作業(構成案の協議/原稿執筆)								
必要性 1～5	5	目的 緊急性 義務 要望・要請 適応性 類似・重複	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/>	有効性 1～5	5	実効性 進捗管理 改善状況 将来性 情報提供 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	令和2年度 決算額	3,265,461円
								令和元年度 決算額	10,537,126円
達成度 1～5	—	現況数値 (平成27年度)	—	目標値(平成34年度)	—	実績値	—		

点検及び評価シート 1

部門名	文化	No	3	-	3
-----	----	----	---	---	---

大項目	文化施設の充実
施策名	市民会館の利活用促進
構成する施策	市民の文化振興の拠点、利活用促進
担当部署	生涯学習部 相馬市民会館
施策の背景と目的	市民会館は市民の文化振興の拠点として、適正な管理運営に努めながら施設の利活用の促進を図ります。 利用許可申請に基づき、利用者が安全に安心して催しができるように貸館業務を行うとともに、施設の適正な維持管理及び利活用促進に努めます。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	B	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	市民会館では、市内の公共施設等にパンフレットを配置し利用者に配布するとともに、市のホームページや広報紙に主なイベントを掲載し、利活用のPRに努めました。令和2年4月21日から5月17日まで臨時休館したものの、コロナ禍による利用者数減を見込み、年間利用者数の目標を10,000人と引き下げたこと、利活用のPRに努めたことから年間利用者数17,750人と目標値を達成することができました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施すべき基本的事項を示した相馬市民会館感染拡大予防ガイドラインを令和2年6月に策定し、利用者に説明・理解をいただきながら安全に安心して利用していただきました。	
課題	コロナ禍でも、新型コロナウイルス感染症対策に係る事前打合せ、手指消毒、入館時の検温、マスクの着用、利用時の換気、会話の自粛、ソーシャルディスタンスの確保等、徹底した対策と細心の注意を払うことで、市民会館が使用可能なことをホームページ等を通じて知っていただき、利用促進に結び付ける。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	市民会館の利活用促進						
事業概要	①広報そうま(毎月15日号)と市のホームページ及び地域情報誌に、会館の催し等を掲載し、利活用のPRに努めました。 ②会館内外の掲示板と市役所庁舎のインフォメーションに、予定表やイベント等の掲示を行い利活用のPRに努めました。 ③会館を定期的に利用している団体の方を通じて、利活用のPRに努めました。						
評価年度の取り組み	・市民会館催しの予定表について、見やすい掲示になるよう取り組みました。 ・市役所庁舎内のインフォメーションに主なイベントの予定表の掲示に取り組みました。 ・地域情報誌いんぷおやシティ情報ふくしまに市民会館のイベントを掲載し、新たな市民会館の利用促進に努めました。 ・相馬市民会館感染拡大予防ガイドラインを令和2年6月8日に策定し、安全な会館利用に努めました。						
必要性 1～5	5	目的 <input type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input type="checkbox"/> 適応性 <input type="checkbox"/> 類似・重複	有効性 1～5	4	実効性 <input type="checkbox"/> 進捗管理 <input type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性	令和2年度 決算額 51,741,819円 平成31年度 ～令和元 年度決算額 56,372,086円	
達成度 1～5	4	現況数値 (令和2年度)	17,750人	目標値(令和2年度)	10,000人	実績値	17,750人

点検及び評価シート1

部門名	文化	No	3	-	4
-----	----	----	---	---	---

大項目	文化財の保存・活用
施策名	歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催
構成する施策	常設展・企画展の開催
担当部署	生涯学習部 生涯学習課
施策の背景と目的	平成26年7月に開館した歴史資料収蔵館において、常設展と企画展を開催することで、市民や観光客が相馬の歴史文化に親しめる場とします。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	A	A 事業をさらに推進することが妥当 B 事業を現状のまま継続することが妥当 C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要 D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要
成果	新型ウィルス感染対策予防の観点から、夏の企画展を中止。令和3年1月9日から2月28日の予定し、「絵はがきの相馬～忘れえぬ風景～」と題し企画展を実施。令和3年2月13日に発生した福島県沖地震により、企画展を中止するとともに、収蔵館が被災し休館となる。	
課題	福島県沖地震による被災資料及び収蔵館自体に係る復旧の実施。 当館では、会計年度任用職員3名並びに併任事務職2名体制で開館・受付・説明などの通常業務を行い、企画展は、事務職員が企画・立案・運営を行っている。収蔵資料の調査についても、専門職員不在のため進捗はない。 資料の保存活用や本市の歴史を周知しうる企画展の開催や常設展のリニューアルを実施するため歴史的証左のできる専門職員配置が望まれる。	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催						
事業概要	常設展では、出土遺物や甲冑、古文書などの展示資料から構成される通史(原始～近世)や佐藤玄々(朝山)、相馬駒焼、御仕法(二宮仕法)、相馬民謡などを写真パネルやグラフィックも含め紹介。 当館に収蔵される資料を用い、年2回の企画展を開催。さらに、収蔵資料をテーマとした講演会を実施する。						
評価年度の取り組み	令和3年1月9日から2月28日 「絵はがきの相馬～忘れえぬ風景～」						
必要性 1～5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input checked="" type="checkbox"/> 類似・重複	有効性 1～5	5	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input type="checkbox"/> 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 令和2年度 決算額 <input checked="" type="checkbox"/> 令和元年度 決算額	5,081,804円 11,197,849円
達成度 1～5	3	現況数値 (平成27年 度)	3,816人	目標値(平 成34年度)	4,000人	実績値	1,136人

点検及び評価シート 1

部門名	体育・スポーツ	No	4	-	1
-----	---------	----	---	---	---

大項目	生涯スポーツの振興
施策名	生涯スポーツの振興
構成する施策	スポーツ少年団活動の充実
担当部署	生涯学習部生涯学習課
施策の背景と目的	震災後、子どもたちの運動不足による体力低下が懸念されている中、子どもたちの運動機会の充実に努める。教育委員会としてスポーツ少年団の魅力と必要性を強く発信し、スポーツ少年団活動の活性化とスポーツ環境の充実に努めます。

【施策を構成する事務事業の自己評価】

総合評価	C	<p>A 事業をさらに推進することが妥当</p> <p>B 事業を現状のまま継続することが妥当</p> <p>C 事業の一部を修正・再検討(事業内容・手法・規模・実施主体等)が必要</p> <p>D 事業の見直し・休止・廃止について検討が必要</p>
成果	<p>新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言等により、スポーツ少年団の活動制限や大会の中止などから登録数はR元年度:32団体、592人からR2年度:24団体、351人と8団体、241人が減少しました。</p> <p>近年、少子化の影響から、スポーツ少年団も低学年団員の新規加入が伸び悩み、活動に支障のある団体が多く見受けられていました。R2年度は、コロナの影響による活動の制限や大会・イベント等の中止もあいまって団員の減少に、さらに拍車がかかる結果となりました。</p>	
課題	<p>大会は各スポーツ少年団にとって大切な目標であり、その目標の喪失は少年団の活動にも影響を与えたといわざるを得ません。また、イベント等の中止により、子供たちがスポーツに触れ合う機会も減少してしまいました。今後は、コロナ禍であっても安易に大会やイベントを中止にせず、できる限り開催に向けて各関係者、指導者と検討を重ねることが必要であると考えます。</p>	

【施策を構成する事務事業の概要・実績等】

事業名	スポーツ少年団活動の充実						
事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響により、予定していた大会やイベントを中止せざるを得ない状況となりました。スポーツ少年団の活動の充実に向けた取り組みは実質的に行うことはできませんでしたが、少年団活動のコロナ感染対策と活動再開のための支援事業として24団体に対し消毒液(607個)、体温計(48個)等の配布を行いました。						
評価年度の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年2月4日 スポーツ少年団の活動再開と新型コロナウイルス感染対策支援事業として、感染対策用品(消毒液、体温計等)の配布及び登録料の返還を実施 事業費:426,100円 ・R3年2月スポーツ少年団の加入記事掲載 						
必要性 1~5	5	目的 <input checked="" type="checkbox"/> 緊急性 <input type="checkbox"/> 義務 <input type="checkbox"/> 要望・要請 <input checked="" type="checkbox"/> 適応性 <input checked="" type="checkbox"/> 類似・重複 <input type="checkbox"/>	有効性 1~5	5	実効性 <input checked="" type="checkbox"/> 進捗管理 <input checked="" type="checkbox"/> 改善状況 <input type="checkbox"/> 将来性 <input checked="" type="checkbox"/> 情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 効率性 <input type="checkbox"/>	令和2年度決算額	105,000円
達成度 1~5	2	現況数値(平成27年度)	706人	目標値(令和4年度)	730人	実績値	351人

各部門別評価対象事務事業一覧

		評価			
		必要性	有効性	達成度	総合評価
部門名	学校教育				
施策名	確かな学力の育成				
事務事業名	学力向上推進事業	5	5	4	A
施策名	豊かな心の育成と生徒指導の充実				
事務事業名	心のケア事業	5	5	4	A
施策名	学校施設の整備・充実				
事務事業名	老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施	5	5	5	A
部門名	生涯学習				
施策名	相馬市まちづくり出前講座の充実				
事務事業名	相馬市まちづくり出前講座の実施	5	4	4	B
施策名	青少年健全育成市民会議活動の充実				
事務事業名	青少年健全育成市民会議事業	5	5	5	B
施策名	地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進				
事務事業名	学習発表会の充実と強化	5	5	3	B
施策名	特色ある公民館活動の推進				
事務事業名	特色ある公民館活動事業	5	5	3	B
施策名	開かれた図書館づくりの推進				
事務事業名	図書館利用に関する調査	4	5	4	B
部門名	文化				
施策名	音楽の郷づくり事業の推進				
事務事業名	そうま音楽夢工房コンサートの実施	5	5	5	B
施策名	相馬市史編さんの実施				
事務事業名	市史編さん事業	5	5	—	B
施策名	市民の文化振興の拠点、利活用促進				
事務事業名	市民会館の利活用推進	5	4	4	B
施策名	常設展・企画展の開催				
事務事業名	歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催	5	5	3	A
部門名	体育・スポーツ				
施策名	スポーツ少年団活動の充実				
事務事業名	スポーツ少年団活動の充実	5	5	2	C

IV 教育委員の意見

点検及び評価（第1次評価）シートに基づき、教育委員による13の施策に対する取り組み方などを、個別評価と総合評価に分けた第2次評価として実施し、教育委員の意見としてまとめました。

評価は、宗形明子教育長職務代理者、菅野明彦委員、森陽子委員、関根進委員、の4人が実施しました。

1 個別評価

【学校教育】

1-1 学校教育の充実 [確かな学力の育成]

《事務事業；学力向上推進事業》

辞書引き活動、新聞コラム活用事業の成果が学力調査の結果にも現れてきており事業を継続して頂きたい。また新たに始めたRST（リーディングスキルテスト）を活用した汎用的読解力向上への取り組みと辞書引き活動、新聞コラム活用事業の相乗効果に期待したい。

1-2 学校教育の充実 [豊かな心の育成と生徒指導の充実]

《事務事業；心のケア事業》

近年不登校になる原因も多岐にわたり、複雑化してきている。最近言われ始めている「愛着障害」については、学校だけで解決できる問題ではなく、本人の医療的側面も考慮しながら福祉、医療関係者などの関係機関との連携していくことが必要と思われる。他市の動向を踏まえ、福祉、医療関係者との連携する体制の構築を望む。

1-3 教育環境の充実 [学校施設の整備・充実]

《事務事業；老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施》

学校施設は、子どもたちの学習・生活の場であるが、一方で地域コミュニティや防災の拠点としての機能を有します。地域の実情を踏まえながら、学校施設の老朽化対策を効率的に行い、児童生徒の安心安全や学校生活環境の向上にさらに努めていただきたい。また今後学校の統廃合など学校のあり方を検討していくことが必要と思われる。

【生涯学習】

2-1 生涯学習推体制の充実 [相馬市まちづくり出前講座の充実]

《事務事業；相馬市まちづくり出前講座の実施》

コロナ禍において、新たに3つの講座を追加できたのは評価できます。
来年度以降もコロナ禍の影響が続く中、従来の講座とICT技術を活用した新たな講座の開設を検討してください。

2-2 青少年の健全育成活動の充実 [青少年健全育成市民会議活動の充実]

《事務事業；青少年健全育成市民会議事業》

コロナ禍で活動自粛の中、運営方法を変えたり、工夫をすることにより活動ができた事例もあった。他の団体にも、活動ができた事例を紹介することや、積極的に取り組むを支援し、助言することが必要かと思われる。

2-3 生涯学習施設の充実 [地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進]

《事務事業；学習発表会の充実・強化》

コロナ禍、福島県沖地震による施設被害の影響もあって目標を大きく下回ったが、来年度以降の開催に向けて期待したい。

2-4 生涯学習施設の充実「特色ある公民館活動の推進」

《事務事業；特色ある公民館活動事業》

コロナ禍において、事業のマンネリ化や参加者の減少の課題が見られるが、参加者の人数だけを評価の基準にするのではなく、事業の将来性、ボランティアの参加者数や地域性にマッチしたなど総合的に判断すべきと考える。また、時代に即したパソコン教室、ZOOMなどのクラウドサービス利活用の教室にも取り組んでいく必要があると考える。

【生涯学習】

2-5 図書館機能の充実 [開かれた図書館づくりの推進]

《事務事業；図書館利用に関する調査》

アンケート調査を行い、図書館利用者の満足度を調査を行ったことは、評価できます。他市の同程度規模の図書館のサービス、アンケート調査内容の比較やSWOT分析などの手法をもちいて多角的に図書館サービスを検証し改善につなげてもらいたい。

【文化】

3-1 芸術文化の振興 [音楽の郷づくり事業の推進]

《事務事業；そうま音楽夢工房コンサートの実施》

この事業を早く市民活動に移行し人材の育成やエルシステマなどの団体と共同で音楽の郷づくりを盛り上げていくような仕組みの検討が必要と思われる。

3-2 文化財の保存、活用 [相馬市史編さんの実施]

《事務事業；市史編さん事業》

相馬市の歴史を知るうえで非常に大切な事業です。本を刊行するに当たり権利関係の調整など様々な要因で、本の刊行に遅延が生じるのはやむを得ないところです。また執筆者の高齢化が気になることから若手の後継者育成も進めてもらいたい。

3-3 文化施設の充実 [市民の文化振興の拠点、利活用促進]

《事務事業；市民会館の利活用促進》

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを策定し、安心安全な会館利用に努めたことは評します。しかしながら利用PR活動だけでは、市民への利用促進の訴求は限られており、市民会館自ら独自の事業を起こし、策定したガイドラインの検証及びコロナ禍においても安心して利用できる事をPRする必要があると考える。

3-4 文化財の保存、活用 [歴史資料収蔵館の利用促進]

《事務事業；歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催》

福島県沖地震の被害が甚大で、施設や展示品の早急な復旧・修繕し収蔵館の再開をお願いしたい。

【体育・スポーツ】

4-1 生涯スポーツの振興 [スポーツ少年団活動の充実]

《事務事業；スポーツ少年団活動の充実》

スポーツを通して地域のコミュニティ作りの一翼を担っています。コロナ禍にあって少年団の減少、新規加入団員の減少等の問題があることを非常に憂慮しています。

スポーツ少年団の再開に向けた支援や市内学校において、各団体の紹介や勧誘の機会を増やすことを検討していく必要があると思います。

2 総合評価

コロナ禍や福島県沖地震の災害の影響で、事業そのものの取りやめや規模縮小などにより正当な評価が出来ないものがあり、これら災害が事務事業に与える影響が大きいと実感しました。その中においても事務事業実施の工夫を図り、努力されたことに対し敬意を表します。今後は、それぞれの事務事業の正常化が図られる中でさらに課題を洗い出し、さらなる事業の発展に努められることを期待いたします。

またコロナ禍において、教育委員会が一体となり感染症予防対策に取り組むとともに中学生のワクチン接種においては、差別、偏見や誹謗中傷が起こらないように、児童生徒や保護者に向けた啓発文やメッセージなどを適切な時に発信し、児童生徒や保護者の不安の緩和に努められました。それにより教育現場の混乱もなくワクチン接種が行われております。

今後におきましても引き続きコロナ禍の差別、偏見や誹謗中傷の抑制に努めて頂きたいと思っております。

V 学識経験者の意見

令和3年度（令和2年度対象）

「教育委員会の主な事務及び執行状況の点検及び評価」報告書に関する意見
福島大学人間発達文化学類 人間発達専攻 准教授 阿内 春生

1 学校教育

1-1 学校教育の充実 [確かな学力の育成]

[事務事業] 学力向上推進事業

新聞活用事業などの書く力を育成する取り組みが、学力学習状況調査などのテストなどにおいて高い水準を保つことにつながっているとすれば、素晴らしい取り組みと言えるだろう。ただし、家庭学習の成果などを含めてとも記されているとおり、新聞活用事業などの学校や行政の関わりがどの程度影響を与えるのか必ずしも明確にできていない。テスト類の指標について、家庭環境や学校関係など変数を統制した上で厳密に検証することで、より説得力ある議論が可能になるはずなので、エビデンスの構築を進めることをお願いしたい。

また、令和元年度決算に比べて300万円ほどの増加が見られるが、どういう要因によるものか、市民に向けてきちんと説明する必要があると考えられる。

1-2 学校教育の充実 [豊かな心の育成と生徒指導の充実]

[事務事業] 心のケア事業

「心のケア事業」への事業名称の変更は事業内容に即した形への変更であり首肯できる。教育委員会の事業として心のケアに取り組むことは重要であり、今後とも継続した活動が望まれる。事業性質上、評価として具体的な事例の内容を書くことは難しいことは理解できるが、具体的に何が成果としてあがったのかが記されておらず、評価の点検自体が難しい。例えば、匿名性を損なわない程度で構わないので、フォロアーチームがいたからこそ対応できた事例の概要を記すことはできないか。市民に対して、行政の取り組みの成果が伝わるように説明することが重要である。

1-3 教育環境の充実 [学校施設の整備・充実]

[事務事業] 老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施

学校設備の中でも耐震化や長寿命化、トイレの改修などを計画的に進めていくことは重要であり、引き続き確実な政策実施をお願いしたい。学校の適正配置の議論の動向を見極めることも重要と考えられるが、子どもたちにとっての学校生活は数年に限られているものであり、子どもたちのために必要な改修工事を躊躇なく進め

ていくことも重要である。

2 生涯学習

2-1 生涯学習推進体制の充実 [相馬市まちづくり出前講座の充実]

[事務事業] 相馬市まちづくり出前講座の実施

こうした生涯学習の取り組みは継続して活動することが重要であるため、講座を準備し途絶えさせないように努力されていることと推察する。新型コロナウイルス感染症が沈静化した後に、スムーズに活動を再開し再び生涯学習としての機能を大きく果たせるように準備を整えておくことが必要である。なお、昨年度まで課題として指摘されていた市民講師の確保についても同様のことが言え、実施できなかった活動を今後どう再開していくか関係各位の力に期待するところが大きい。

教育委員会からの評価にもあるように、ICT活用によりビデオ通話などによって可能となる活動もあるのではないかと柔軟な発想で取り組みを進めていただきたい。

2-2 青少年の健全育成活動の充実 [青少年健全育成市民会議活動の充実]

[事務事業] 青少年健全育成市民会議事業

順調に推移してきた申請団体数が新型コロナウイルス感染症の拡大によって大きく減少してしまったことは大変残念だがやむを得ないだろう。行政から活動できた事例を示すとのことだが、そうした行政からの働きかけは令和3年度も引き続き必要となっているため継続していただきたい。

なお、昨年度の評価シートや他の指標でも指摘しているが、活動にいくら支出したかという指標だけでなく、それらが市民活動にどのような便益をもたらしたかを検証できるようなデータの構築をお願いしたい。

2-3 生涯学習施設の充実 [地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進]

[事務事業] 学習発表会の充実と強化

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、学習発表会が中止せざるを得なかったのは理解できる。その中で工夫をして活動を継続しようとしている公民館の支援を進めていただきたい。中央公民館からの指摘にもあるように中止期間が長引けば活動再開には困難が生じる可能性もある。コロナ後を見据えた対応を準備していく必要がある。

2-4 生涯学習施設の充実 [特色ある公民館活動の推進]

[事務事業] 特色ある公民館活動事業

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、かなりの数の中止の取り組みが生じ

てしまったことはやむを得ないと考えられる。その中で、前年比 35%弱の参加者数を達成できたことはむしろ大きな成果であるとも言えるだろう。市民の活動がコロナ後も継続されるように行政としての後押しを期待したい。

今年度の評価シートにおいては、前年との比較が可能なように評価年度の取り組み欄が記述されており、シートの表記が改善されている。市民にわかりやすい評価を示せるように引き続き表記の工夫をお願いしたい。

2-5 図書館機能の充実 [開かれた図書館づくりの推進]

[事務事業] 図書館利用に関する調査

アンケート調査を行うこと自体が事業の取り組みになっていることは少し理解に苦しむ。アンケートは何らかの目的を持って行われるものであり、その目的が図書館利用者の満足度の向上やレファレンスサービスの質的向上であるのなら、それらを事業として示すのが自然ではないだろうか。

アンケート調査結果で明らかになった要望に応えるために、レファレンスサービスの質的向上に取り組んだことは理解できる。アンケート調査自体は次年度以降も引き続きすすめ、その成果が現れているか検証を行うことを望みたい。

3 文化

3-1 芸術文化の振興 [音楽の郷づくり事業の推進]

[事務事業] そうま音楽夢工房コンサートの実施

新型コロナウイルス感染症拡大により音楽コンサートの規模縮小や中止はどこでも起きていることと考えられ、実施回数が少なくなったことや参加者が少なくなったことはやむを得ないだろう。コロナ後の活動をスムーズに再開するためにも、教育委員会からの評価でも指摘されているように、市民活動への移行を検討する必要があるだろう。

3-2 文化財の保存・活用 [相馬市史編さんの実施]

[事務事業] 市史編さん事業

資料編 2 冊が刊行できたことは遅れがちであった刊行に進捗が見られたということで、一定の成果を上げたということができよう。評価年度の取り組み欄において、進捗状況が最も進んでいると考えられる「編集・校正等」の段階にあるものよりも、「構成案の協議/原稿執筆」となっているものの方が先に刊行できる計画となっているが、これはこういった事情によるのだろうか。市民にとってわかりやすい説明があるとよいだろう。また、例年執筆者との連携が課題となっていることが記されているが、引き続き関係各位で連携して、円滑な刊行ができるように努力

していただきたい。

3-3 文化施設の充実〔市民の文化復興の拠点、利活用促進〕

〔事務事業〕 市民会館の利活用促進

新型コロナウイルス感染症の拡大により目標値を切り下げて対応したことはやむを得ないと考えられるが、市民にわかりやすく伝えるためにも元の目標値からどれだけ下げたのか、という実態を示すことをためらってはならない。利用者数などの数値は催事の内容にも大きく左右されるため、完全に比較可能な形で示すことは難しいが、活動内容の例示などがあった方が、市民への情報提供の経過を評価として見やすくなる。ご検討をお願いしたい。

3-4 文化財の保存・活用〔常設展・企画展の開催〕

〔事務事業〕 歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催

新型コロナウイルス感染症の拡大に加えて、令和3年2月の地震によって収蔵館が被災したということで極めて困難な状況に直面していることと推察する。コロナ後、修繕後の活動再開に向けて準備を継続されることを望みたい。

4 体育・スポーツ

4-1 生涯スポーツの振興〔スポーツ少年団活動の充実〕

〔事務事業〕 スポーツ少年団活動の充実

新型コロナウイルスの感染拡大によってスポーツ少年団活動が大きく縮小していることがデータの上からも明らかであり残念だがやむを得ないだろう。その中で、教育委員会の施策として感染対策のための支援を行ってきたことは一定評価できる。また、活動縮小の全てが教育委員会の責任に帰すものとは考えられないので、Cの自己評価はやや厳しいようにも感じられる。

大会再開のための支援、感染対策品の配布・貸与など引き続き可能な支援方法があると考えられ、活動再開に向けていかなる支援が可能か、関係者でアイデアを持ち寄って鋭意努力していただきたい。

令和3年度（令和2年度対象）

「教育委員会の主な事務及び執行状況の点検及び評価」報告書に関する意見

福島大学学校臨床支援センター 特任教授 佐藤和彦

【総括的意見】

令和2年度相馬市教育委員会の教育行政は、6年間の計画期間とする「相馬市教育振興基本計画2017」推進の4年目を迎えた。現在、コロナ禍において、多くの事業が制限、並びに事業の見直しが求められている中であって、本市教育委員会が「教育振興基本計画」に則り、本市の児童生徒及び市民のために、「安全・安心」を最上位の目標に掲げ、明確なPDCAサイクルにより教育事務事業を誠実、かつ適切に展開していることに敬意を表したい。

本市教育委員会は、これまでに、相馬市総合計画「相馬市マスタープラン2017」に基づく「教育振興基本計画」を策定する中で、基本理念「地域づくりを支え、心豊かに力強く生き抜くひとづくり」のもと、施策構成の骨格をしっかりと固め、独自の「戦略性」をもって教育行政を進めてきた。

「教育事務点検評価」のねらいの一つに、点検及び評価シートを通す中で、教育行政を動かす力は組織内部にあることを、事業実施過程、及び成果と課題から、評価者自身の省察と気づきによって意味づけていくことがあげられる。

また、事業評価では、いつも「実績値」と「目標値」比較による「達成度」が重要となってくるが、今後、さらに「展開度」についても見ていく必要があると考える。多様化・複雑化していく教育行政において、事務局主導の教育委員会から脱皮していくことが、次の新たなステージであると考えられる。

「展開度」とは、事業実施にあたっての組織的対応の広がりを示すものであり、例を挙げれば、担当職員だけの展開→教育委員会内だけの浸透・展開→関係者に浸透・展開→事業に関わる人以外にも浸透・展開、といったものである。この「展開度」は、いわば事業推進のパワーにつながっていくものであり、組織的対応の現況を示すものといえる。

今回の「教育事務点検評価」結果が、後半2年間を見据えた次年度以降の事業運営に反映されることを期待するものである。

以下、具体的な意見を述べる。

1 学校教育

1-1 学校教育の充実 [確かな学力の育成]

[事務事業] 学力向上推進事業

今回の新学習指導要領で示された育成すべき三つの資質・能力（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）の育成は、学校教育における喫緊の課題である。加えて、本年1月の中教審答申では、「令和の日本型学校教育の構築」の中で、「個別最適の学び」と「協働的学び」が示され、個に応じた指導の一層の推進と ICT 教育の充実が求められてきている。本事業は、これら時代の要請を踏まえ、従来の「新聞や新聞コラム活用」に加え、新たに RST（リーディングスキルテスト）を活用した汎用的読解力向上を目指した取り組みであり、児童生徒の確かな学力の育成に向けて大変意義深く、貴重な取り組みといえる。

今後、本事業を効果的に進めるうえで重要となってくるのは、達成状況に基づく各学校の授業改善と、本事業と密接に連動させていく各学校のカリキュラム・マネジメントであろう。あわせて、ICT 環境の整備充実を進めながら、ICT 活用による個に応じた指導の一層の推進に向けた取り組みを期待するものである。

1-2 学校教育の充実 [豊かな心の育成と生徒指導の充実]

[事務事業] 心のケア事業

現在、学校現場の喫緊の課題の一つである「いじめ・不登校」等の生徒指導上の問題行動への対応は急務であり、児童生徒の自己肯定感を高めるとともに、望ましい人間関係づくりを基盤とする学級・学校づくりと、教育相談の充実に向けた取り組みは、大変重要となってくる。

「QUアンケートの実施とその活用」とあわせて、「相馬フォロアチーム」によるカウンセリング業務、スクールソーシャルワーカー派遣事業、メンタルヘルスサポート事業、の三つを柱とした本事業は、現在、児童生徒・家庭が抱える課題が、多様化、複雑化している現状においては、極めて有効であり、その児童生徒への心のケア、家庭への手厚い支援に向けた事業展開は、高く評価したい。今後も引き続き、教育、医療、福祉等の各分野と連携した積極的な取り組みを推進していくことを期待するものである。

1-3 教育環境の充実 [学校施設の整備・充実]

[事務事業] 老朽化した校舎、設備などの改築・改修の実施

学校施設は、児童生徒の学び・生活の場であるとともに、地域コミュニティの拠点としての役割を担っており、何よりも「安全・安心」な教育環境づくりに向けた計画的、継続的な事業推進が求められてくる。本事業では、地域の実情を踏まえな

がら、校舎の老朽化対策と施設設備の改修が効率的に行われておることから、今後とも計画推進に向けて努力を継続していったらいい。

その際、緊急性のあるものについては、柔軟性とスピード感を持って取り組むことが、保護者、地域からの信頼を得ることにつながっていく。また、現在の少子化の流れの中で、児童生徒数の動向を踏まえた学校の統廃合に向けて、中・長期的なビジョンを策定して、より効果的な取り組みを期待するものである。

2 生涯学習

2-1 生涯学習推進体制の充実 [相馬市まちづくり出前講座の充実]

[事務事業] 相馬市まちづくり出前講座の実施

コロナ禍における厳しい活動制限等があったものの、事業実績値については、大いに評価できるものであり、関係者の努力と工夫が、十分に認められるところである。ともすると、高齢者中心になりがちな「出前講座」ではあるが、小・中学校、企業等、広く市民全体に展開されていることも評価したい。

今後、受講者のニーズに応える魅力的な講座にしていくための工夫が一層求められてくるとともに、本事業の理念や目的を踏まえたとき、相馬市の現状や歴史等を通して、「ふるさとへの自信と誇り」を育む事業展開になっていくことを期待したい。

2-2 青少年の健全育成活動の充実 [青少年健全育成市民会議活動の充実]

[事務事業] 青少年健全育成市民会議事業

本事業における青少年の成長を支える環境づくりとその充実に向けた取り組みは、現在、子どもをめぐる様々な課題、家庭、地域の教育力の低下が叫ばれる中であって、大変意義深く、高く評価するものである。コロナ禍において、多くの団体が活動自粛を余儀なくされている現状を踏まえながらも、たんなる補助金、奨励金の交付事業にとどまることなく、活動事例や方策を共有しながら、各種団体、育成活動の抱える課題を焦点化し、育成活動の活性化につなげていく取り組みを期待したい。

2-3 生涯学習施設の充実 [地域づくりを目指したふれあい、交流事業の推進]

[事務事業] 学習発表会の充実と強化

コロナ禍の影響により、達成度は3の評価ではあるが、多くの公民館が、学習意欲の高揚と市民との交流を目的に、その代替事業を工夫、努力して実施してきた取り組みは、大いに評価できる。

学習発表会の実施に向けた課題が散見する中であって、今回、新たにコロナ対策

の要因が加わったことは、事業の抱える課題解決が、一層困難さを伴うものとなってくると考える。今後も引き続き、事業実施の方法、内容について大幅な見直しが求められてくるであろう。実施にあたっては、これまで以上に、地域住民の理解と協力が不可欠であり、その橋渡し役としての教育委員会の果たす役割は大きいといえる。

2-4 生涯学習施設の充実〔特色ある公民館活動の推進〕

〔事務事業〕 特色ある公民館活動事業

今回、生涯学習課所管の各種事業は、新型コロナウイルス感染症や福島県沖地震の影響により、事業の自粛、制限を余儀なくされ、実績値、達成値ともに例年を下回るものとなった。

これらの影響や活動形態は、今後も継続していくことを踏まえたとき、まずは、市民の「安全・安心」を第一主義として、事業の点検と改善の工夫が必要となる。目先の数値目標にとらわれることなく、ICTの活用による連携、コラボ等、特色ある公民館活動づくりのチャンスととらえたい。

2-5 図書館機能の充実〔開かれた図書館づくりの推進〕

〔事務事業〕 図書館利用に関する調査

本事業は、図書館利用者の意識、ニーズを的確に捉え、積極的な利用に向けた図書館サービスの向上につなげていくものである。調査することがねらいではなく、現状の図書館運営の在り方を、利用者の満足度をもとに評価し、図書館サービスの改善につなげていくものでなければならない。

その意味からすると、調査結果から浮き彫りになった課題とその課題解決に向けた方策を明確にする必要がある。さらにその改善方策についての有効性について、PDCA サイクルの中で検証していくことが、今後求められてくる。

3 文化

3-1 芸術文化の振興〔音楽の郷づくり事業の推進〕

〔事務事業〕 そうま音楽夢工房コンサートの実施

今回は、コロナ禍の影響もあり1回のみで開催となってしまった。課題として挙げられたものに、コロナ禍への対応とともに、本活動を担う人材の育成・発掘が挙げられている。今後、「民謡」の分野など、音楽のジャンルを広げていくとともに、市民との協働の視点に立ち、幅広く一般市民のボランティアの参加・協力を求めながら、市民活動を本格化していくことが求められる。

3-2 文化財の保存・活用 [相馬市史編さんの実施]

[事務事業] 市史編さん事業

市史の編さん作業は、市民が郷土の歴史や文化を学び、将来の市政発展の精神的基盤をつくる上で、極めて重要な事業であると受け止めている。一方でその作業は、専門的知識と多くの時間や経費を伴う地道な作業でもある。

それらを踏まえると、総合評価が「C」となっており、達成度が明記されていないことについては、今後、計画とともに作業内容の実質的な進捗状況を勘案して評価していくことが妥当だと思われる。さらに、市史編さん作業と併せて、その公開、活用をどう図っていくのが課題となってくるであろう。

3-3 文化施設の充実 [市民の文化復興の拠点、利活用促進]

[事務事業] 市民会館の利活用促進

コロナ禍の中にあって、市民会館感染拡大予防ガイドラインを策定するとともに、パンフレットやホームページにより利活用を呼びかけ、「安全・安心」な館利用に努め、目標値を達成したことは、大いに評価できる。

本事業は、市民会館が広く市民の交流、コミュニティの場として機能していくための重要な事業といえる。コロナ禍の影響は今後も続くことから、感染防止対策について市民の理解と協力を求めながら、利用促進に結びつけてほしい。

3-4 文化財の保存・活用 [常設展・企画展の開催]

[事務事業] 歴史資料収蔵館における常設展・企画展の開催

コロナ禍、福島県沖地震の影響で、計画した企画展の中止、収蔵館の休館は、やむを得ない事態といえる。施設・設備の早急な復旧を進め、再開を望むものである。これまでも挙げられてきた配置職員の人数、専門職員の配置の課題については、財源確保が必要になってくることから、その努力とともに、現体制を踏まえた着実な事業取り組みを期待するものである。

4 体育・スポーツ

4-1 生涯スポーツの振興 [スポーツ少年団活動の充実]

[事務事業] スポーツ少年団活動の充実

他の事業同様、コロナ禍の影響により、参加団体が減少するとともに、各種大会、イベントが中止になったことは、やむを得ない事態である。

スポーツ少年団活動の充実は、子どもたちに社会体育の場を確保しながら、生涯スポーツの基礎を養う上で、大きな役割を担っている。

今後、しばらくはコロナ禍における活動が続くことを踏まえ、感染防止への支援

とともに、大会、イベントの実施の在り方について官民一体となった検討を重ね、スポーツ少年団活動の充実に努めていただきたい。